

## 浦神検潮所海面絶対高観測（2009年）

### DETERMINATION OF GEOCENTRIC HEIGHT OF MEAN SEA LEVEL AT THE URAGAMI TIDE STATION IN 2009

Summary -This observation has been carried out every year for the purpose of monitoring the sea level change. Geocentric height of the mean sea level above the WGS-84 ellipsoid was obtained at the Uragami tide station in the Kii Peninsula from 2008 to 2009 by combining the Satellite Laser Ranging and GPS techniques.

Key words : geocentric height - mean sea level - Satellite Laser Ranging - GPS

#### 1. はじめに

海洋情報部では1980年から海洋測地網の整備を推進しており、この中で、下里水路観測所は海洋測地網の原点である本土基準点として位置づけられ、1982年以来人工衛星レーザー測距（SLR）観測を行うことによって、その正確な世界測地系に基づく位置が求められている。

下里本土基準点では、地球重心に対する精密な高さが求められていることから、地球温暖化対策に資する目的で、至近の験潮所との間で水準測量を実施することにより、地球重心を基準とした絶対的な海面の高さを監視している。

本報告では、2008年6月から2009年6月にかけて実施した浦神検潮所における海面絶対高観測について報告する。

#### 2. 作業概要

下里水路観測所におけるSLR観測に基づく本土基準点（下里H0標石）と浦神検潮所附属水準点標石（KBM）間において（図1）、GPSによる水準測量を行い、地球重心に基づく海面絶対高を測定した。

海面絶対高算出方法の概要は以下のとおり（図2）。

- (イ) SLR解析によって、下里H0標石の観測年における楕円体高を求める。
- (ロ) 下里H0標石を基準として、GPS観測結果と直接水準測量結果を合わせて解析することにより、KBMの楕円体高を求める。
- (ハ) KBMの楕円体高から潮位年報の値を用いて、平均水面の楕円体高を求める。

#### 3. 観測結果

##### (1) SLR解析による下里H0標石の楕円体高の算出

GEODYN-IIによるラジオスI、IIの解析により求められたレーザー測距装置の不動点HTの楕円体高から、観測年における下里H0標石の楕円体高H0'を求め、MGC2000に基づく下里H0標石（楕円体高97.536m）からの変化量 $\Delta H0$ を求めた。（HTとH0の楕円体高差は管理測量により求められた4.091mを使用。）

年	2008年	2009年
HT (m)	101.595	101.615
H0' (m)	97.504	97.524
$\Delta H0$ (m)	-0.032	-0.012

(2) KBM の楕円体高の導出

KBM 上での GPS 観測が困難であったため、近傍で観測条件を満たす場所に HBM（離心点：KBM からの路線長は 117m）を設け GPS 観測を行った。HBM における GPS の測位結果と直接水準測量によって求めた HBM と KBM の高低差を用いて、KBM の楕円体高を導出した。

(イ) GPS 解析による HBM の楕円体高（MGC2000）の測定

取得した GPS データを、下里 H0 標石（MGC2000）を基準とした基線解析を行い、楕円体高  $H_{HBM}$ （MGC2000）を求めた。解析ソフト GPSurvey Ver2.35a を用い、GPS の軌道要素は IGS 精密暦を使用した。

観測年月	2008年 6月	2008年 11月	2009年 3月	2009年 6月
$H_{HBM}$ (MGC2000) (m)	41.595	41.592	41.617	41.612
2003 年からの差 (m)	-0.003	-0.006	+0.019	+0.014

(ハ) 直接水準測量による KBM の楕円体高の導出

HBM(離心点)~KBM の水準測量を行い、高低差を求めた。

年	2008年 6月	2008年 11月	2009年 3月	2009年 6月
KBM~HBM(m)	1.093	1.094	1.094	1.093

以上より、観測年における KBM の楕円体高  $H_{KBM}$  は以下のとおり。なお、複数の観測を年単位で平均した。2008 年は海洋情報部観測報告衛星測地編第 23 号により報告されている 2008 年 2 月の値と合わせて平均した。

$$H_{KBM} = H_{HBM} + (HBM \sim KBM) + \Delta H0$$

年	2008年	2009年
$H_{KBM}$ (m)	42.653	42.696
2003 年からの差 (m)	-0.039	+0.004

(3) 海面絶対高の算出

KBM の楕円体高から平均水面の楕円体高を求めるために、以下の (イ) ~ (ロ) の海岸昇降検知センター潮位年報の値を用いた。

(イ) KBM～球分体の高低差

海岸昇降検知センター潮位年報記載の KBM と球分体の高低差は以下のとおり。

測定年月	2008 年 9 月
KBM～球分体(m)	0.387

(ロ) 潮位観測基準面（気象庁 Datum Line）～球分体

DL～球分体 4.720m

(ハ) 平均水面

年	2008 年	2009 年
平均水面 (m)	1.502	1.501
2003 年からの差 (m)	+0.028	+0.027

以上の結果より、平均水面の楕円体高  $H_m$ （海面絶対高）は、以下のとおりに求めた。

$$H_m = H_{KBM} - (\text{KBM} \sim \text{球分体}) - (\text{DL} \sim \text{球分体}) + \text{平均水面}$$

年	2008 年	2009 年
$H_m$ (m)	39.048	39.090
2003 年からの差 (m)	-0.011	+0.031

#### 4. 成果

$H_{KBM}$ 、平均水面、海面絶対高の 2003 年からの変化を図 3 に示す。

観測期間における  $H_{KBM}$  の変動は数 cm 程度に収まっており、平均水面と海面絶対高に有意な差を生じさせるような大きな地盤変動は起きていない。

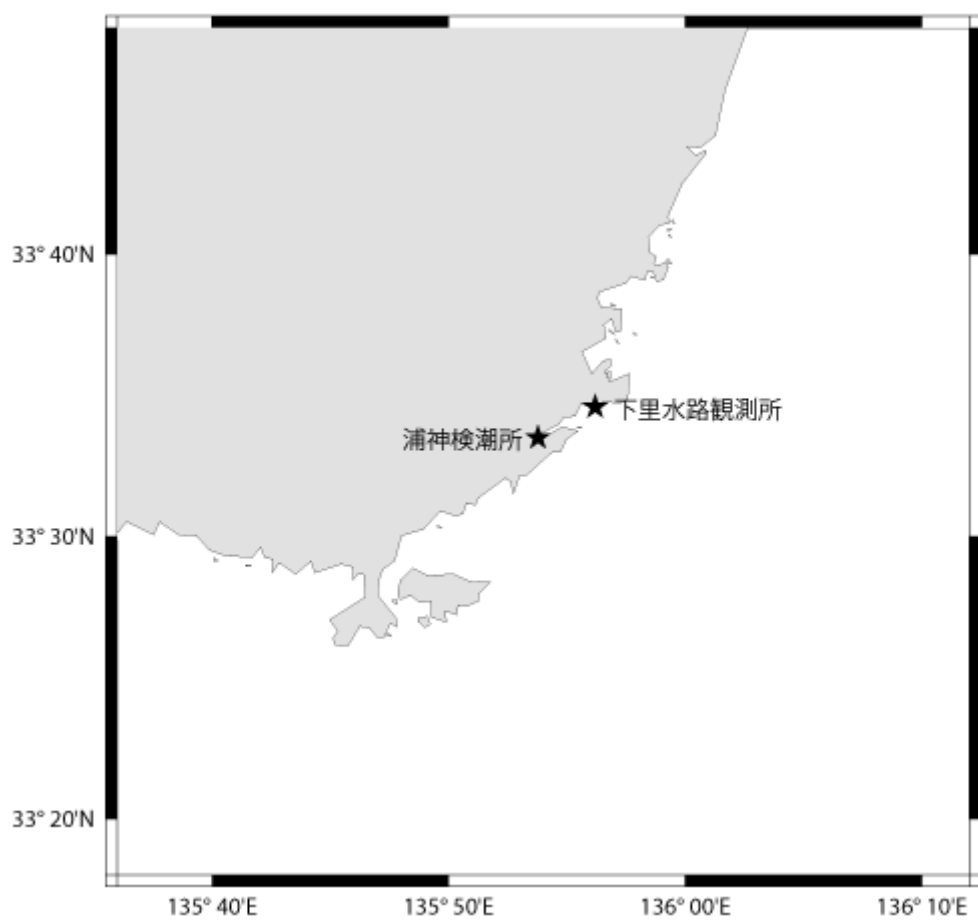
海面高は短期的な変動を見せているものの、本観測の目的である地球温暖化の影響による長期的な海面高の変化を捉えるには観測期間が不十分である。よって、今後も長期継続的に観測を行う必要がある。

#### 参 考 文 献

海岸昇降検知センター潮位年報 : <http://cais.gsi.go.jp/cmdc/center/siryu.html>

海洋情報部観測報告衛星測地編, 23, 浦神検潮所海面絶対高観測 (2008 年)

図 1



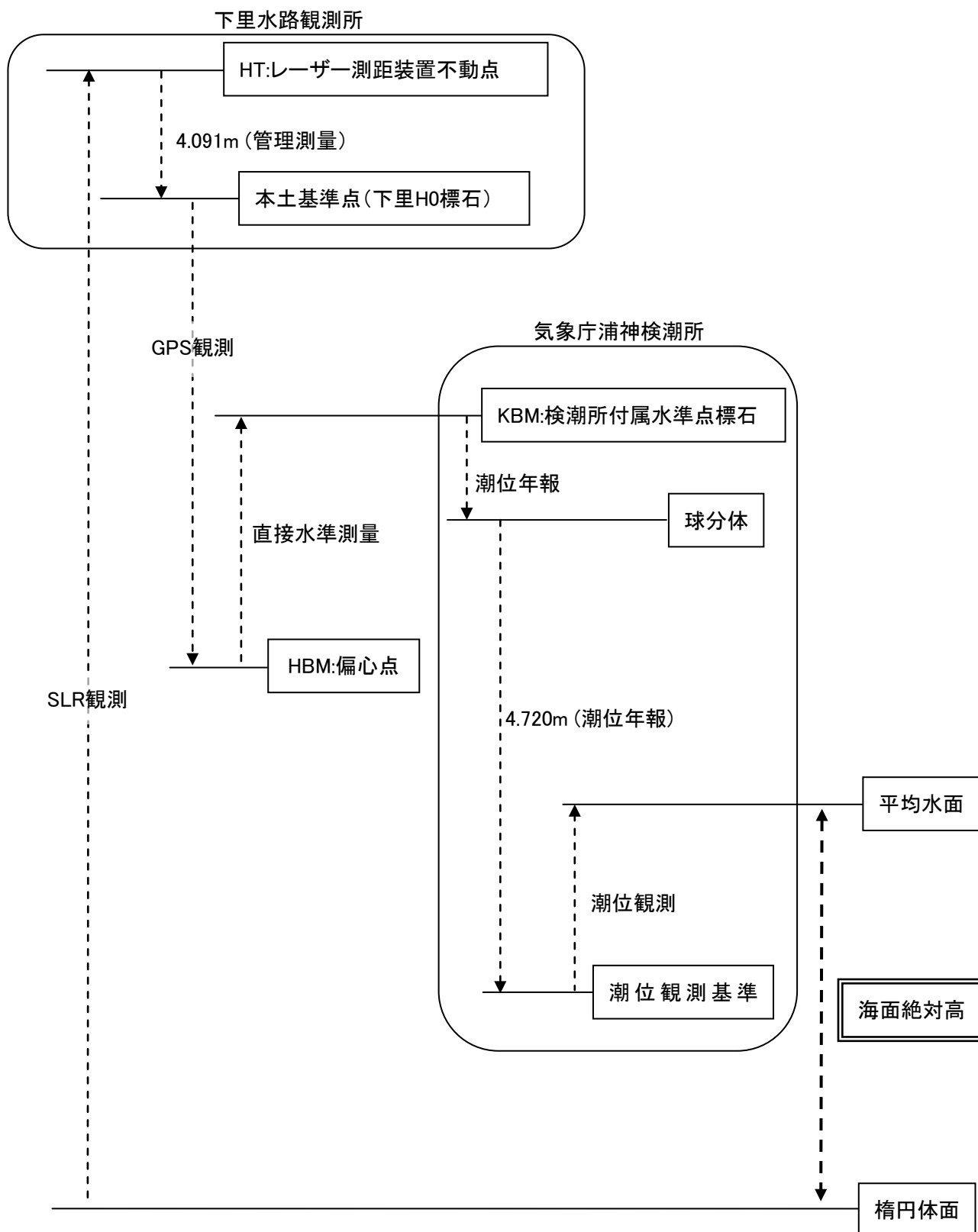


図 3

